

願成寺報

令和三年十一月二十四日

〒四四〇・〇八一二 豊橋市東新町二十八番地

☎ 〇五三二・五二・九六〇一

報恩講のご案内

昨年同様に、感染対策をして勤めます。

- ・暖房を強力にして、窓などにて換気します
 - ・お参りの際はマスクの着用を願います
 - ・堂内三〇名の人数制限の場合あり
 - ・事前にご連絡いただければ席を確保します
 - ・お斎（昼食）と雅楽は中止します
- 午前・午後共お参りで昼食にお困りの方は
ご相談下さい

真宗寺院で最も大切な行事です。



十二月 主 東木 午後一時 餅つき 草取り 余

十二月 四 日(土) 午後一時半 法要・法話 岡崎市浄泉寺 戸田 栄信 師

午後三時半 お非時(お雑煮)

午後四時 法要・法話 住職

五 日(日) 午前十時 法要・法話 西川 舜優 師

講談のような説話説教 ①

午前十一時 お斎(昼食) 雅楽演奏

午後一時半 法要・法話 西川 舜優 師

講談のような説話説教 ②

「仏」とは何か

「念仏して浄土に生まれて仏になる」にハイと頷ければ幸福です。

不完全な理知に汚染されている私は、「浄土」とは、「仏」とは何かと…

私は本当に「仏」になりたいのだろうかかと疑い、迷いの旅路が始まります。

それを迷いとも識らずに袋小路に入り込んだ時、道標に気がつきます。

「こうじゃなかった」と、さては父もここを迷ったのかとニヤリとします。

「念仏して浄土に生まれて仏になれ」と励まされ、次の一步を踏み出します。

迷いの旅路は、道標を探すスタンプリィになりました。

ゴールはスタート地点、迷う前から分かっていました。

「念仏して浄土に生まれて仏になれ」の励ましは、私を導く諸仏の声です。

であれば、父は仏になっていた。

私もここに道標を建てれば、仏のはたらきを荷うことができる。

諸仏に護られながら、自信を持ってこの道を歩みます。

仏になつていく道は、諸仏と出遇っていく道でした。

「浄土」は、阿弥陀仏の功德の光に照らされて、仏を育む世界です。

だとすれば、道標のある場所は、浄土と地続きだと思えます。

であれば、迷いの現場は浄土のフロンティア。

迷い人は、浄土のバイオニアだといえます。

念仏の行者は、足跡に蓮の花が咲くような、そんな道を歩むのかも知れません。

念仏申して、迷いの袋小路で、ニヤリとしてみませんか。

南无阿弥陀仏ヲトナフレバ 十方无量ノ諸仏ハ

百重千重圍繞シテ ヨロコビマモリタマフナリ

《現世利益和讃・親鸞聖人》

● 阿弥陀経ノート④・正宗分・讚極樂・依報莊嚴I

書き直しを恐れず、今、思い浮かぶところを書き留める

また舍利弗、極樂国土には七宝の池あり。八功德水その中に充滿せり。池の底には純ら金沙を以て地に布けり。四辺の階道、金・銀・瑠璃・玻瓈をもつて合成せり。上に樓閣有り。また金・銀・瑠璃・玻瓈・磤磤・赤珠・碼碯を以て而も之を嚴飾せり。池の中の蓮華、大き車輪の如し。青き色には青き光、黄なる色には黄なる光、赤き色には赤き光、白き色には白き光ありて、微妙香潔なり。舍利弗、極樂国土には、是の如きの功德莊嚴を成就せり。

また舍利弗、彼の仏の国土には、常に天樂をなす。黄金を地と為す。昼夜六時に曼陀羅華を雨らす。その国の衆生、常に清旦を以て各衣袂を以て、衆の妙華を盛れて、他方の十万億の仏を供養し、即ち食時を以て本国に還り到りて、飯食し経行す。舍利弗、極樂国土には、是の如きの功德莊嚴を成就せり。

〈仏説阿弥陀経・書き下し〉

- ・ 八功德水 澄淨／清冷／甘美／輕軟／潤沢／穩和／除濁／滋養 の性質を持ち、心身を清める功德の水。
- ・ 四辺階道 階段状の護岸。沐浴のための階段。
- ・ 功德莊嚴 仏の願いが形となった世界。
- ・ 天樂 天に流れる妙なる音楽。
- ・ 昼夜六時 一日を六分した勤行の時刻。晨朝／日中／日没／初夜／中夜／後夜。
- ・ 曼陀羅華 朝顔のような花。天の華で、色よく芳香を放つ。
- ・ 清旦 すがすがしい早朝。
- ・ 衣袂 花を盛る器。
- ・ 飯食経行 食事をとって散歩する。

・ 失樂園の意味

理知の果実をかじった罪によって樂園を追われた…というより、理知の作
用により樂園にいなから樂園を見失った…のだと思う。けれど、見失ったか
らこそ樂園を回復することができる。回復の過程は感動に満ちたものになる
に違いない。樂園に安住したままでは得られなかった慶びがそこにある筈だ。

・ それは眼前の景色

沐浴の池も、樓閣も、蓮の花も、全てこの祇園精舎には整っていた。舍利弗
も仲間も、時を定めて行を修め、毎朝托鉢に出かけている。舍利弗には、釈尊
が今ここにある風景と生活をお説きになっているとしか思えなかった。

けれど輝きが違っていた。釈尊の様に輝く世界と観えないし、妙なる音楽も
聴こえてこない…智慧第一の弟子だからこそ、問わざるを得ない課題がそこ
にあった。舍利弗は釈尊を理想として同じ世界を生きたいと願い、「どうすれ
ば」と問うて、答えが見つからず焦っていたのだと思う。または、覚り（涅槃）
に囚われて、凍りついた世界で身動きがとれなくなっていたのかも知れない。

・ そのままの輝き

舍利弗はこの精舎を思い通りに整えたが、蓮の花一本、砂の一粒でさえ、自
ら作り出したものではなかった。その輝きは自ら作り出せるものではない。

青黄赤白の色を喜怒哀楽に対応させることは的外れだろうか。喜怒哀楽も、そ
れが生起したなら、そのままに輝くというダイナミックな世界は、極樂のイメ
ージに合わないだろうか…全てが樂で整うとはどういう事だろう。

天樂には長調も短調もあっただろう。不協和音も調和のスパイスとなる。

仏が莊嚴する異次元の世界の謎は深まるばかりであったが、仏を目指す舍利
弗の課題が少し明確になってきた。

「仏とは何か」声聞の弟子は今まで問うことのなかった疑問に驚いていた。

創作・スダツタ長者の財施

ある日、スダツタ長者は釈尊に面会する機会を得た。

「私は商家に生まれ、商人として努力し成功して参りました。今や、欲しい物は大概手に入りますが、身分の低さはどうしようもありません。そのことを思うと、どうしても王家に生まれて、品の良い美しい妻を迎えたい。今生では無理なので、来世を願っています。それで、貧乏人に食事を施して、給孤独長者と讃えられるほど善行を積んで参りましたが、どこまでやったら良いのかと… 王家のお生まれで、覚りも開かれた貴方様なら、その法を… 存じに違いない。是非、ご指南いただきたいとお訪ねした次第です。

「ええ、貴方様が王家を捨てたことは存じております。お妃様も、それは美しい方だったと… え、「今、私が私になることが大事」のですか… それはどのような事なのでしょう…

「商人として、必要なものを吟味し、必要な人に届けよ」ですか…

「近親、特に妻にも、常にナマステの笑顔で接せよ」

「毎日、その日あった出来事の、嬉しかった事を書き記せ」と？ そんな事…

簡単ではなかった。特に妻に対しては、不足の眼でしか接していなかったことに気が付いた。だんだんと、「本当に必要な事」を尋ね、相談するようになっていった。上手くいかない課題に仲間を得て、仲間との交流を、嬉しかった出来事として記述した。既に、自分自身の為に何かを願うことはなくなっていた。

この世界には釈尊の教えが広まる事が必要だ。その為の精舎を建設したいと願うようになり、妻に相談すると、シエータ太子の森（祇陀林）が良いという。

大きな願いを背景にした彼は、もう身分の違いを卑下することなく、王家に気後れすることもなかった。太子に談判し、その情熱に共感を得て、力を合わせて精舎を寄進する運びとなった。後に、この精舎は祇樹給孤独園（祇園）精舎と呼ばれ、釈尊の教えを長く伝統し、多くの仏弟子を養った。

彼は没後、兜率天に生まれたと伝えられるが、自他の垣根を課題にした彼にとって、それはおまけの話だったのだと思う。

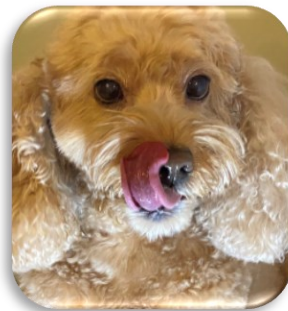
〈釈尊の説法他、資料なしの創作です〉

少欲知足 もったいない



今年も彼岸花が可憐に咲きました。彼岸に少し遅れたのは気候変動のせいかしら。物言わぬ花の小さな警告かも知れません。わがまま勝手な人類に、少しは慎めと咲きました。

和顔愛語 ようこそ ようこそ



この寺報がなかなか書けず不機嫌でした。暗黒光線は家内中に反射して返ってきます。そんな時、犬がペロリと舌を出しました。物言わぬ動物の和顔愛語。十四歳のお婆ちゃんは、寝てばかりですが、良い仕事をしています。

恭敬三宝 おかげさま



報恩講の準備は大変です。

境内・墓地を掃除して、仏具を磨いて、聖人絵伝を掛けて、打ち敷を掛けて、お供えを飾って、ご本前を五具足にして、松の立華が良いのだけれど… 花立てて、高座・礼盤をしつらえて…

外側に幕を掛けたり、旗を出したり。

本堂がピカピカになります。

いや、せねばなりません。

どこまで出来たか、手抜きはないか、忌憚のないご意見をお待ちしています。

行事予定（令和四年）

コロナ感染防止の為、昼食中止等、内容変更の場合もありますが、日時の変更はない予定です。

一月 一日（土・祝）	修正会 お正月のお勤めです 簡単なお節を準備します 午前十一時～
三月 二十一日（月・祝）	春季彼岸・永代経法会（成田屋紫蝶師） 落語と法話で楽しく過ごします お非時（昼食）あり 午前十時～、午後一時
八月 十五日（月）	お盆・歓喜会（住職） 法要・法話で亡き人を偲びます 軽食・花火あり 午後六時～
九月 二十五日（日）	秋季彼岸・永代経法会（戸田恵信師） お馴染みの先生の情熱的な法話です お非時（昼食）あり 午前十時～、午後一時
十一月 三日（木・祝）	本山納骨堂法会・団体参拝 本山へ貸切りバスにて団体参拝します 午前六時半ごろ集合
十二月 三日（土） 四日（日）	報恩講 御開山聖人御恩に報いる法会です 二日目のみお非時（昼食）あり 一日目 午後一時半～ 二日目 午前十時、午後一時半～
二～十二月 毎月一日	月例会 毎月一日 午後二時～ 日時変更の場合があります 寺にご確認下さい
*二月は二日に変更します	

↓ 後記 ↓

○ ウォルト・ディズニーもステイブ・ジョブズも、ものになるかどうかを差し置いて、独創的なアイデアを誉めたそうです。

阿弥陀様もそうだといいな：

正解は平凡で当たり前でつまらない。間違い方は千差万別、その中に面白いものもあり、瓢箪から駒と、新たな発見があるかも知れません。

毎回、勝手な事ばかり書いていて、真面目な先生が読んだらどう思うだろう：怒り心頭で坊さんをクビになるかも知れません。

これは困る。

けれど、それよりもっと困るのは、これを読んだ皆様が、真宗の、お念仏の教えはそんなものかと、つまらないと見限ってしまったことです。

だから、見限ろうとする人は是非、文句を言いに来て下さい。

きつと、双方に新しい発見があるでしょう。

お念仏でなく、私が見限られることもある訳で、これは仕方ありません。

書きながら、いつも同じところをウロウロしていると分かっています。

突破口がないのは、経験不足のせいかも知れません。

友達が少ないせいなのかも：

迷いを質しあう友人があれば、もっと独創できるかも。

○ 本当は、面白くなくても、独創的でなくても良いのです。

二番煎じでも、コピーでも良い。

領けたことを伝えたい。

立って、衣服を整えて、その出遇いに領いて、慶ぶように歩みたい。

その歩みを励ます言葉を記したい。

もっと具体的に、経験したことを語らねば…

こんな文章に意味があるのか：と、座り込んでしまいます。

一生懸命ならば、それなりに道標になっているよ。

仏様の励ましを聞きたくて、ウンウンうなって頑張ってます。